

An aerial photograph of a river valley. A river flows through the center, with a bridge crossing it. The surrounding area includes green fields, a village with houses, and dense green forests. The text is overlaid on the image.

# 今後の河道掘削箇所における 設計段階での取組

【令和3年度 全国多自然川づくり会議】

令和3年12月14日

北海道開発局 室蘭開発建設部 苫小牧河川事務所

# 目次

1. 沙流川流域の概要
2. 流域の特性
3. 沙流川水系河川整備計画
4. 検討対象箇所概要
5. 課題と目標
6. 取組
7. 考察、今後の対応方針

# 【沙流川流域の概要】

- 流域の中心集落は沙流川本流沿いに立地し、日高西部一円の拠点となっている。
- 流域の約9割を森林が占めている。**平野部の土地利用は、平取町においては田畑、日高町では田畑のほか牧場**に利用されている。
- 年間降水量の平均は約1,100mmであり、降水量は7～9月に最も多い。

## 流域及び氾濫域の諸元

流域面積	: 1,350km <sup>2</sup> (全国49位/109水系)
幹川流路延長	: 104km (全国49位/109水系)
流域内人口	: 約14,000人
想定氾濫区域面積	: 47km <sup>2</sup>
想定氾濫区域内人口	: 約7,000人
想定氾濫区域内資産	: 約1,569億円
関係市町村	: 日高町、平取町 (2町)
	(第9回河川現況調査 H22.3)

## 水質

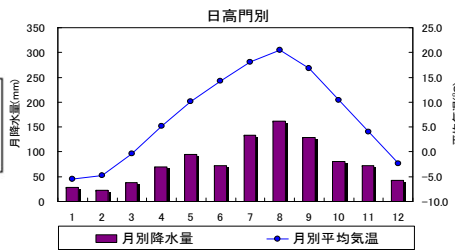
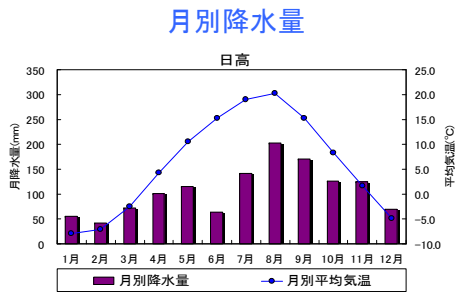
◆ 国土交通省が毎年公表している一級河川の「水質ランキング」(BOD値)において、上位にランク。(R2全国一位)

## 流域の土地利用

■ 流域の土地利用は、森林が約88%、水田、畑等の農地が約7%、宅地等の市街地、その他が約5%となっている。

## 降雨特性

■ 沙流川流域の年間降水量の平均は約1,115mmであり、北海道平均(1,086mm)と比較するとやや多く、降水量は7～9月に最も多い。

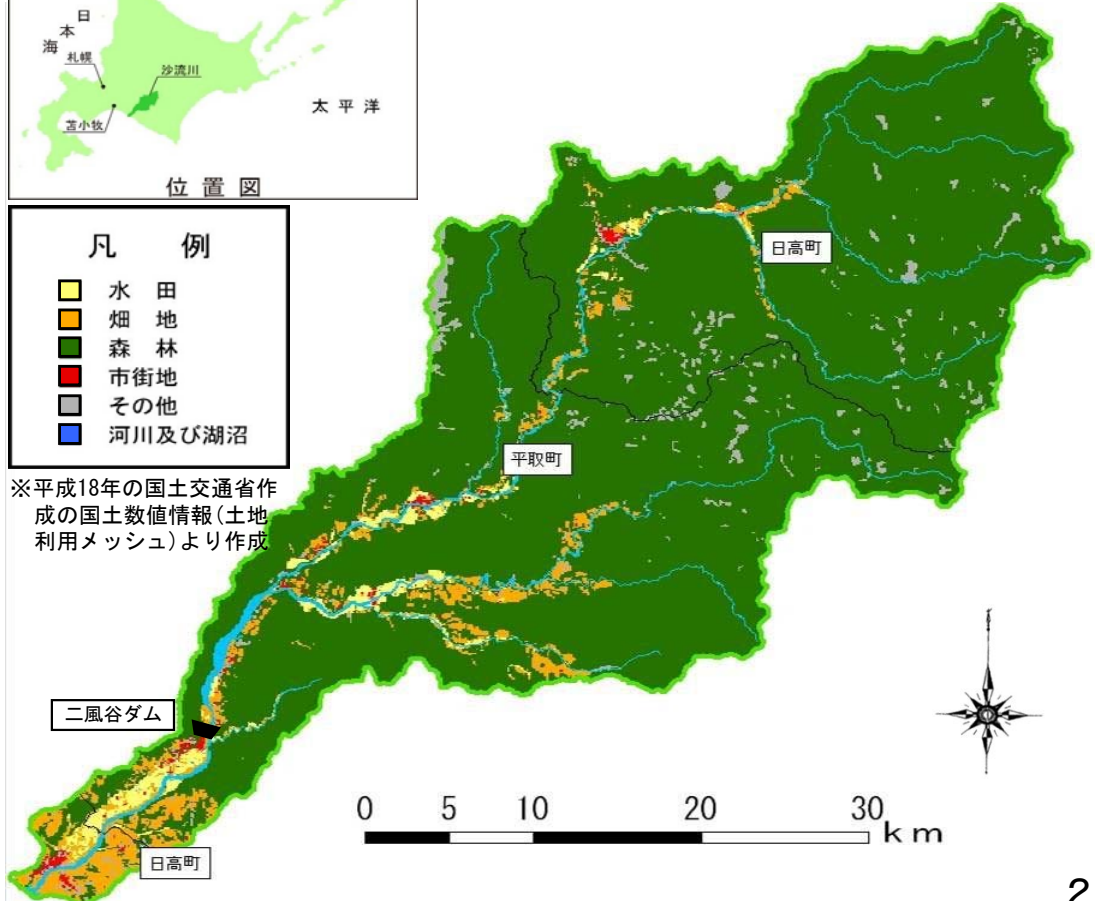


出典: 気象庁

統計期間: 1982～2011年(グラフは30カ年平均値)



※平成18年の国土交通省作成の国土数値情報(土地利用メッシュ)より作成



## 【流域の特性】

### ■ アイヌ文化が受け継がれる地域

- ・ 沙流川流域は、先史時代から人々が生活の足跡を残し、アイヌ文化の時代にあっては道内で有数のコタン（集落）を形成し、アイヌの人々が先住している地域である。
- ・ その伝統・文化は今日の流域社会に深く結びついていて、チッサンケ（舟おろしの儀式）、口承文芸、アイヌ古式舞踊などが今日まで受け継がれている。
- ・ 平取町においては、このアイヌ文化を後世に伝えるため、その発展と関わりの深い沙流川を中心としたアイヌ文化をさらに振興させる構造として「平取地域イオル再生事業」を進めている。



チッサンケ（舟降ろしの儀式）  
沙流川水系河川整備計画より



アイヌ古式舞踊



沙流川流域の様子



チセ群  
平取町立二風谷アイヌ文化博物館HPより

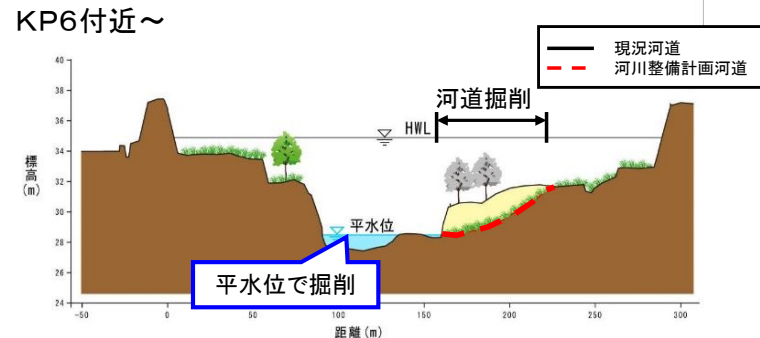
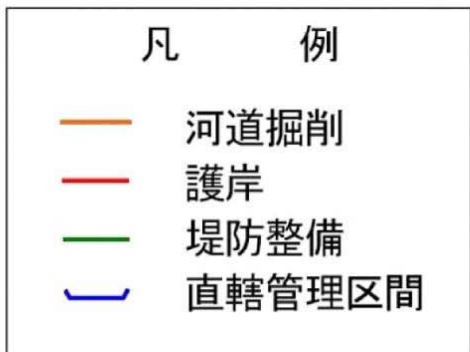
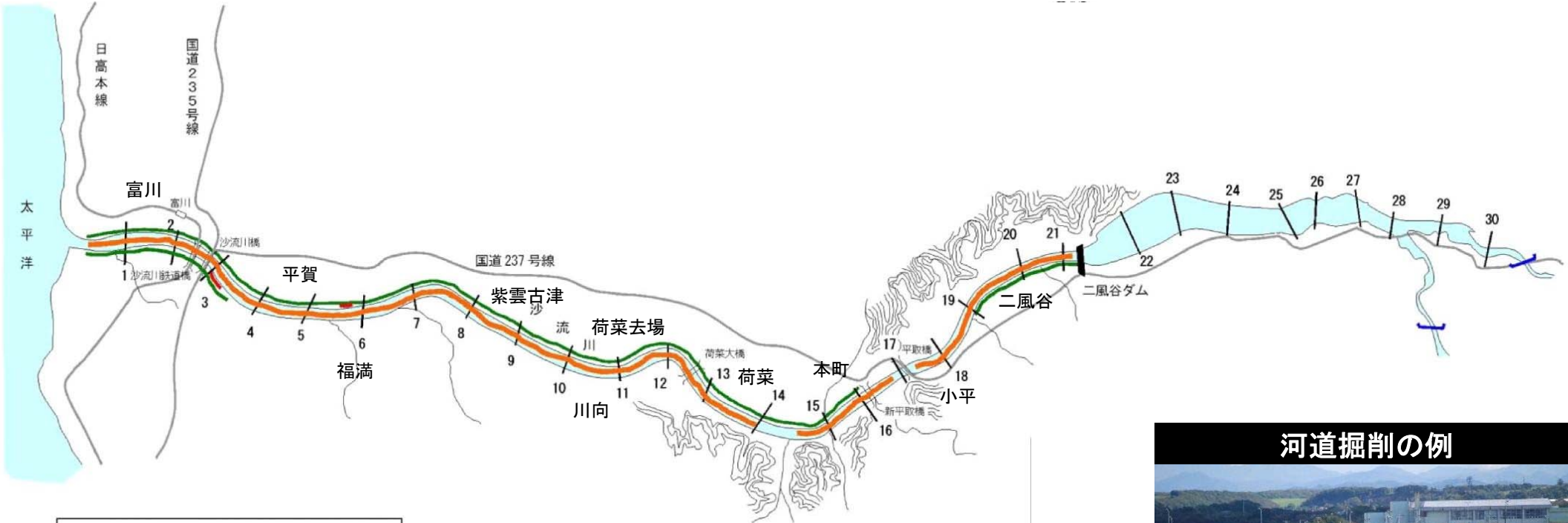


アイヌ文様入り民具  
平取町立二風谷アイヌ文化博物館HPより

# 【沙流川水系河川整備計画1】

## ■ 河道掘削の進捗と今後の河道掘削予定箇所

- ・ 沙流川では流下能力対策として河道掘削を継続して実施しているところ。
- ・ 中上流部においては、平水位より上での掘削としている。
- ・ 掘削に関する進捗等情報は日頃から自治体と共有。掘削予定箇所の植生調査を事前に実施など。



## 【沙流川水系河川整備計画2】

■河川整備計画における記載内容 ⇒ アイヌ文化に配慮した計画

- ・流域に伝わるアイヌ文化などの継承が図られるよう努める  
(ガマ・ヨシは、アイヌ文化における生活民具・祭具等の複製に使われる有用植物)
- ・これらの資源を供給する上で必要な河川環境を保全、創出していくことに努める



ヨシ・ガマ等の有用植物

平成26年度沙流川総合水系環境整備事業事業評価資料3-3より



有用植物の採取の様子



オニカプンチタラペ  
(半分模様付きござ)完成の様子



トマ(ござ)製作の様子



ガマ乾燥中の様子

# 【検討対象箇所の詳細1】

## ■市街地に近接する箇所

- ・ 親水公園にも隣接、憩いの場、散歩・サイクリング・フットパス等で利用されている

## ■文化的景観

- ・ 「アイヌの伝統と近代の開拓による沙流川流域の文化的景観」が2007年7月に文化庁によって全国で3番目に重要文化的景観に選定（R3.3末道内では唯一）
- ・ 「イオル水辺空間と水際の植物」は文化的景観の構成要素の一つとして位置付けられている

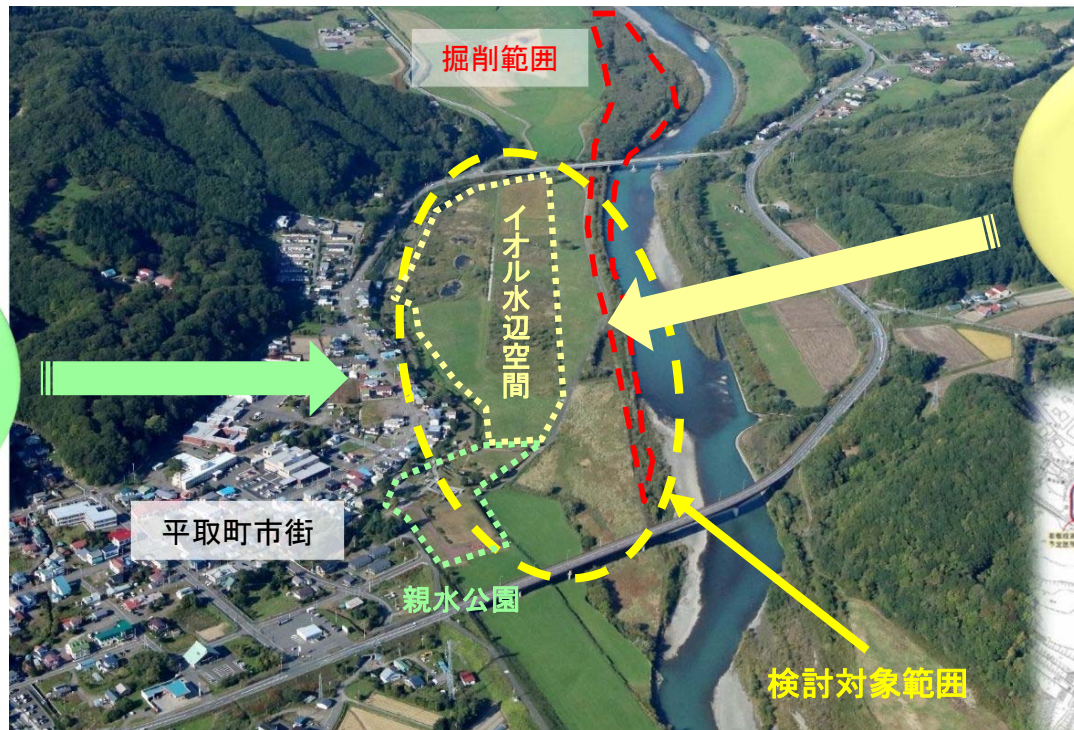


フットパスイベントの様子  
「平取町かわまちづくり計画」より

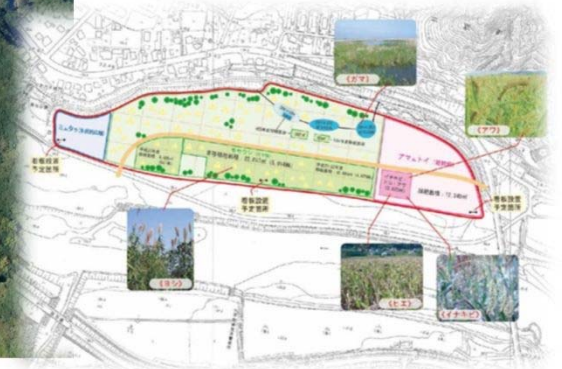
市街地に近接  
「憩いの場」



サイクリングイベントの様子



文化的景観



イオル水辺空間と水際の植物  
北海道平取町文化的景観解説シートより

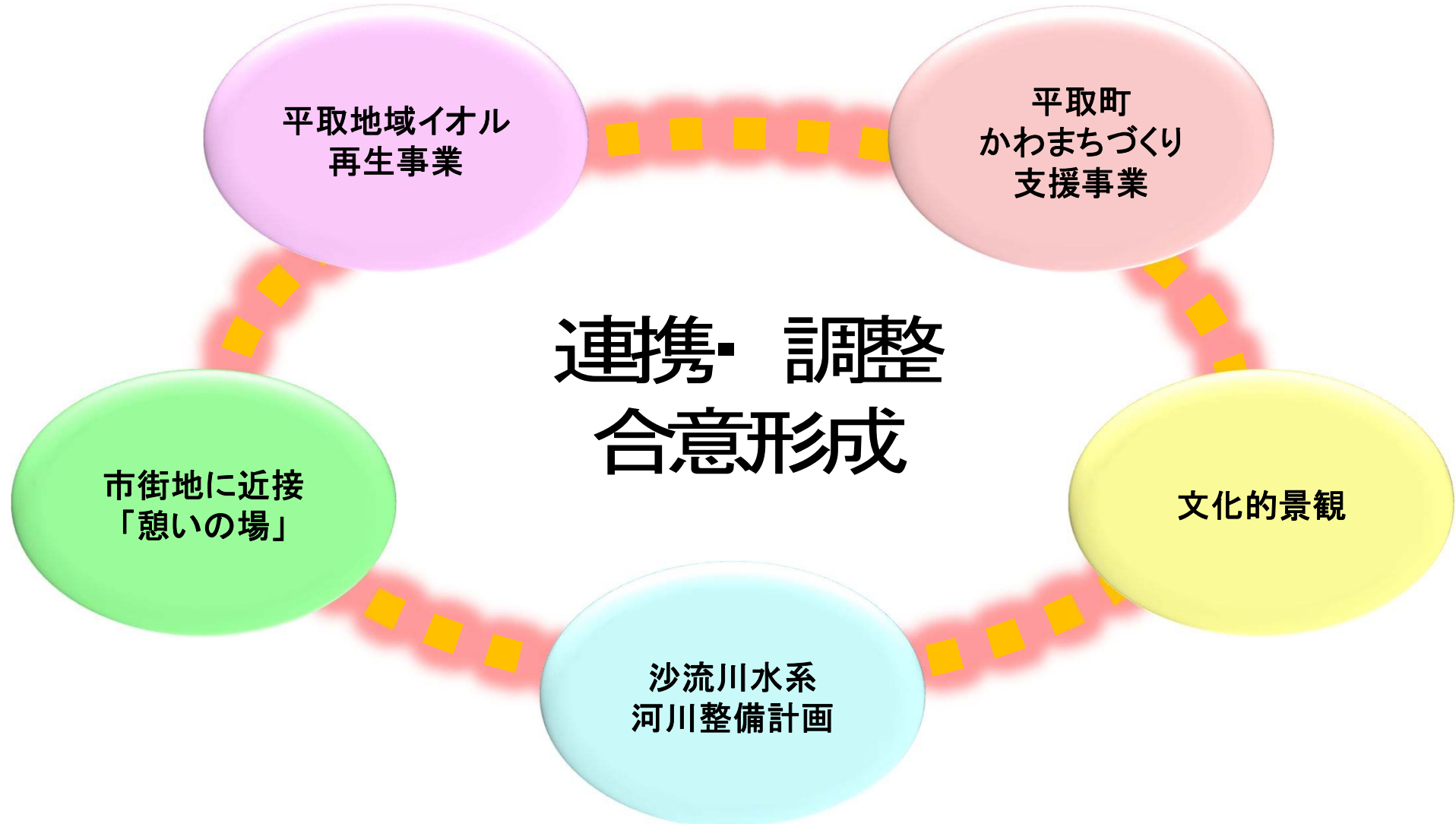




## 【課題と目標】

課題：地域に根付く文化や、多様な計画・事業が関係する箇所での河道掘削に取り組むにあたっては、一つの計画や事業のみを進める対応では目標達成が困難

目標：他計画・各ステークホルダー（住民、自治体、国）との連携・調整を効率的に図りかつ合意形成を得ること



## 【取り組み内容1】

- ・ 河道掘削の設計を進める中で、地域意見の反映を目的とした枠組みが必要であった。
- ・ 一方、平取町が進める「平取地域イオル再生事業」で、当該箇所のある方を関係者間で話し合う場が既に存在（水辺部会）しており、ここでも同じタイミングで河道掘削後の姿が議論となり始めていることを受け、町担当者との調整を開始した。
- ・ 水辺部会では、沙流川流域での有用植物の素材確保必要量不足が課題となっており、河道掘削に合わせた生育の場の創出可能性を模索し始めていたところであった。
- ・ このことから、地域の意向確認及び意向との調整を図るべく段階的に「水辺部会への参加」を行った。

### これまでの流れ

- |           |  |
|-----------|--|
| 令和2年夏頃    | 自治体担当者との調整開始<br>(河道掘削に関する水辺部会での議論について) |
| 令和3年1月、3月 | 水辺部会への参加                               |
| 令和3年7月    | 水辺部会及び現地ワーキングへの参加                      |
| 令和3年8月、9月 | 水辺部会に向けた勉強の場の実施                        |



水辺部会の様子



水辺部会現地ワーキングの様子

## 【取り組み内容2】

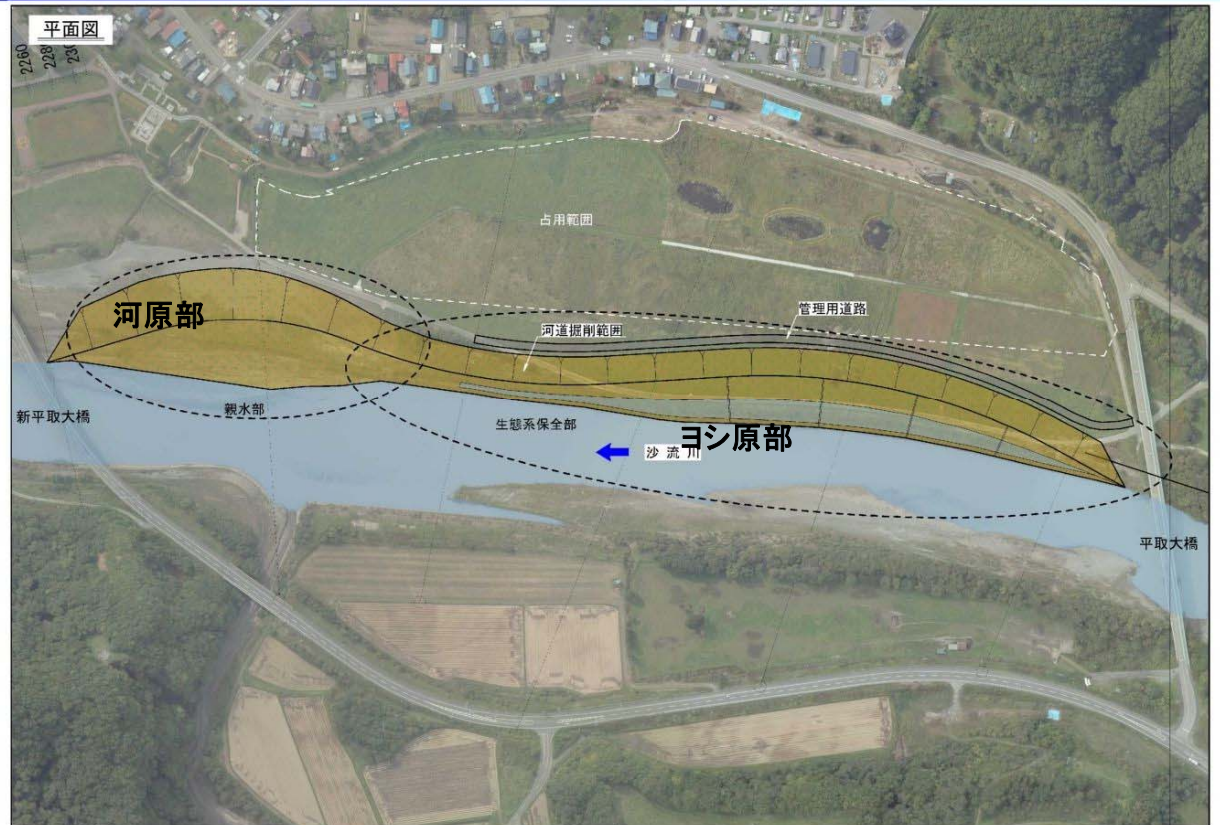
- ・水辺部会へ参加するにあたっては、自治体担当者や部会長、事務所担当者のみが参加し、提示内容の事前勉強などを行える「水辺部会に向けた勉強の場」の枠組み構築を行っている。
- ・この場を設ける事により、専門的な部分の事前調整・共有及び他部会員へ向けた提示内容の調整を効率良く図る事が可能となり、効果的・効率的な合意形成に資するものと期待。
- ・現時点では、部会で提示された意見を元に、整備の方向性としてゾーニング分けを行い提示している段階。



「水辺部会に向けた勉強の場」の様子

### 整備イメージ平面図

210914\_水辺部会打合せ資料  
室蘭開発建設部苫小牧河川事務所



掘削形状等は現在のイメージであり、今後変わることもある

整備イメージ(ゾーニング)提示内容

## 【考察、今後の対応方針】

### 【考察】

- アイヌ文化が河川空間と密接に関係している事、また自治体としてアイヌ文化振興に向けた事業を進めていて、河川空間のあり方について話し合う既存の場が存在しているという背景があり、地域として河川整備への関心が高い。
- 流域内における有用植物の素材確保量不足という課題から、河道掘削に合わせた有用植物生育箇所確保という観点で議論され始めていたことが、掘削にあたっての地域意向確認という当方のニーズと一致した。
- 地域との調整にあたっては、初期段階での河道掘削形状等の提示を最小限にとどめる事で参加者の活発な意見交換を促す等、地域が求めるものを最大限に引き出すための細かい配慮が重要と感じた。

### 【今後の対応方針】

- 地域の意見を踏まえた掘削形状等について合意形成を図り設計を行うとともに、維持管理のあり方や施工時の取組などについて地域との調整を図りながら成果をまとめる予定。
- ヨシ・ガマの生育を期待する適切な掘削敷高について、樹林化抑制等の維持管理を考慮しつつ、河床との関係や冠水頻度を考慮し設定する予定。